

Ⅱ 調査結果の概要

停滞感が漂う中、設備投資の動きも

1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値(前年同期比)については▲21.3 となり、前回調査(28年4-6月期)の▲22.2 から0.9ポイント上昇している。来期見通しにおいては、3.0ポイント上昇して▲18.3となる見通しになっている。

売上高D I (前年同期比)については▲24.2 となり、前回調査から2.7ポイント下降している。来期見通しにおいては4.5ポイント上昇して▲19.7となる見通しになっている。

収益性D I (前年同期比)については▲18.3 となり、前回調査から4.5ポイント上昇している。来期見通しにおいては1.4ポイント上昇して▲16.9となる見通しになっている。

業況D I (前年同期比)については▲18.7 となり、前回調査から0.4ポイント上昇している。来期見通しにおいては3.6ポイント上昇して▲15.1となる見通しになっている。

原材料価格D I (前期比)については4.2 となり、前回調査から2.6ポイント下降している。

販売価格D I (前期比)については▲6.3 となり、前回調査から0.1ポイント上昇している。

資金繰りD I (前期比)については▲8.7 となり、前回調査から1.6ポイント上昇し、好転している。

金融機関の態度D I (前期比)については▲1.9 となり、前回調査から4.3ポイント下降し、硬化している。

設備投資実施率については26.7%となり、前回調査から2.4ポイント上昇し、3期連続で伸長している。業種別で最も高い実施率となったのは「食料品」の42.9%、目的別では「品質向上」が24.1%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については33.8%となり、前回調査から3.1ポイント上昇している。

設備操業率D I (前期比)については▲10.7 となり、前回調査から7.5ポイント上昇している。











雇用人員判断D I (前期比)については2.7 となり、前回調査から2.0ポイント下降し、不足感が弱まっている。

全体の景況天気図は、26年7-9月期に「曇」から「小雨」に転じて以降、9期連続して「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

業種別に見ると「プラスチック製品」は「曇」から「薄日」へ前回調査と比べ唯一天気図が回復している。反面、「食料品」は「小雨」から「雨」へ悪化している。また、「紙・加工品」・「繊維・同製品」・「金属・同製品」・「木材・木製品」・「機械・機器」は「小雨」、「窯業・土石製品」は「雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「窯業・土石製品」・「食料品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復。反面、「プラスチック製品」は「薄日」から「小雨」へ悪化。「機械・機器」・「紙・加工品」・「金属・同製品」・「木材・木製品」・「繊維・同製品」は「小雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	26		27				28			来 期 見 通
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	
全 体	 ▲12.6	 ▲13.0	 ▲14.0	 ▲20.1	 ▲21.9	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲18.3

※景況天気図は「売上高」「収益性」(前年同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

